

「安全が命」のシンガポール、テロ対策もビジネスに

碓 知子

8月9日はシンガポールの独立記念日。マリーナ・ベイの水上浮体施設で恒例のパレードが夕方から開催されました。と、突然、発砲音が会場に響き、銃を持った複数の男が会場に「乱入」。中継中のテレビキャスターも「事件発生」を報道・・・シンガポールにテロ？ いえいえ、ご心配なく。これは「テロ演習」で、ほどなくエリート奇襲部隊員により「鎮圧」されました。

しかし、「なんだ、演習か」と笑って済ますわけにはいきません。昨年8月には、独立記念日直前にバタム島¹からマリーナ・ベイをロケット弾で狙う一味の逮捕という事件が発生しているのです。幸い、テロは未然に防ぐことができましたが、シンガポールもいつテロに狙われてもおかしくない。というよりも日ごろから、テロはシンガポールを狙っているはずなのです。

<安全が命>

頻繁ではないにしても、近隣諸国ではテロは「起こり得るもの」としてとらえられてきました。2016年6月にはクアラルンプールのナイトクラブで爆弾テロがありました。一方、シンガポールは「治安の良さ」が周辺諸国と対照的に際立っていることが、セールスポイントの1つです。国土が小さくて目が届きやすいこと、国民が全員番号制度で把握されていることといった制度もあり、治安の良さはまるで空気のように当たり前だったので、2016年8月のテロ未遂逮捕は、多くのシンガポール人にとって寝耳に水だったのです。

世界有数の港、空港、欧米大企業も多く立地するビジネス街や、世界各国の大手石油化学企業のプラントが立ち並ぶジュロン島。テロの標的にならないわけがありません。もちろん政府としても治安対策を軽んじてきたわけではなく、しっかり対策をとってきたので、国民は治安の良さを空気のように享受してきたわけです。

<テロの脅威もビジネスに>

セキュリティ強化が必要なのは、もちろんシンガポールだけではありません。しかも現代は、自爆テロからサイバー攻撃まで幅広く対応しなければなりません。シンガポール政府も相当の予算をセキュリティにつぎ込んでいるのは確かですが、その「市場」を目当てに、多くのセキュリティ企業が地場、外資問わずシンガポールに立地しており、その数は200社以上といわれています。

さらに、インターポール（国際刑事警察機構）はシンガポールにグローバル活動を強化する施設「Global Complex」を2014年に設立。ここでは最先端の技術を導入して、犯罪や犯罪者の特定、革新的な研修、活動支援や捜査連携などの研究を行っています。セキュリティ関連分野でもアジア太平洋地域の中心としての頭角を現しています。

シンガポール政府は2013年にセキュリティ産業を推進する戦略的機関「セキュリティ産業プログラムオフィス（SSIPO）」を立ち上げ、セキュリティ関連企業のシンガポールへの投資誘致、国土の安全や都市化に関する諸問題を特定し、セキュリティ関連企業と協力したソリューション開発、企業が開発したソリューションの実証実験の支援などを行っています。

セキュリティにお金をつぎ込むだけでなく、そこから産業を育成する・・・さすがシンガポールと言わざるを得ません。シンガポール西部ですすむ次世代メガ港湾開発、空港ターミナル5などなど、主要な国家事業がこれからも目白押しのシンガポール。セキュリティ関連企業の活躍の場も広がると思います。

¹ シンガポールの南側からフェリーで40分のインドネシア領の島



テロ警戒啓発ポスター（MRT の駅構内）



テロ警戒啓発ステッカー（公団住宅エレベーター内）